令　和　元　年　度

学校保健統計速報
（学校保健統計調査の結果速報）

ー鹿児島県分集計ー

令和元年12月

鹿児島県企画部統計課

利 用 上 の 注 意

1　調査の期日等

平成31年4月1日から令和元年6月30日までの間に実施された学校保健安全法による健康診断の結果について調査したものである。

2　調査の範囲・対象

・　調査の範囲は，幼稚園，幼保連携型認定こども園（5歳児（平成31年4月1日現在の満年齢），小学校，中学校，義務教育学校，高等学校及び中等教育学校のうち，文部科学大臣があらかじめ指定する学校（以下「調査実施校」という。）。

幼稚園には幼保連携型認定こども園を，小学校には義務教育学校（第1～6学年）を，中学校には義務教育学校（第7～9学年）及び中等教育学校の前期課程を，高等学校には中等教育学校の後期課程をそれぞれ含む（以下同じ）。

・　調査の対象は，調査実施校に在籍する，満5歳から17歳（平成31年4月1日現在）までの幼児，児童及び生徒である。

発育状態調査は，調査実施校に在籍する幼児，児童及び生徒のうちから年齢別男女別に抽出された者を対象とし，健康状態調査は調査実施校の当該年齢の全員を対象としている。

・　本県における調査実施校数，調査対象者数及び抽出率は次のとおりである。

区分	調査実施校数（校）	発育状態調査対象者数 人	健康状態調査対象者数 人
幼稚園	35	1,177	1,589
小学校	61	5,631	30,901
中学校	40	4,742	17,939
高等学校	28	2,345	22,098
計	164	13,895	72,527
		鹿児島県内の幼児・児童及び生徒総数の7．4％	鹿児島県内の幼児・児童及び生徒総数の38.5％

参考　：令和元年度幼児，児童及び生徒の数（令和元年度学校基本統計速報（学校基本調査の結果速報）より）

幼稚園（5歳児）：8,768人　　小学校全児童数：90,463人　　中学校全生徒数：44,933人

義務教育学校全児童生徒数：641人　　高等学校全生徒数：43,801人

：高等学校の生徒数には「通信制課程」を含んでいない。

3　数値の取り扱い

・　この速報の数値は，令和元年度に実施された学校保健統計調査について，鹿児島県分を取りまとめた概数であり，文部科学省が令和2年3月公表予定の「学校保健統計調査報告書」をもって確定数とする。

なお，鹿児島県分を取りまとめた数値については，調査対象者数が少ない（全数調査ではない）ため，誤差が大きく出る可能性があるので，利用に当たっては注意が必要である。

・　計欄の数値と内訳の合計の数値とは，四捨五入しているため，一致しない場合がある。

4　その他

全国分集計結果については，文部科学省のホームページに掲載されている。

（http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/main_b8.htm）

調査結果の概要

（鹿児島県）

Ⅰ　発育状態調査

1　身長･体重の本県平均値

令和元年度の幼稚園，小学校，中学校及び高等学校における幼児，児童及び生徒の身長，体重の本県平均値を年齢別にみると表1のとおりである。

（1）身長　男子の身長は，8歳，9歳，11歳，12歳，16歳で前年度を上回っている。
女子の身長は，5歳，7歳，9歳，13歳～17歳で前年度を上回っている。
なお，9歳～11歳の各年齢で女子は男子を上回っている。

（2）体重　男子の体重は，5歳，8歳，9歳，11歳，13歳，14際，16歳で前年度を上回っている。
女子の体重は，7歳，9歳，11歳，12歳，16歳，17歳で前年度を上回っている。
なお，11歳，12歳で女子は男子を上回っている。

表1　年齢別　身長･体重の平均値

区分			身長(cm)			体重(kg)		
			令和元年度	平成30年度	差	令和元年度	平成30年度	差
男子	幼稚園	5歳	109.7	109.8	△ 0.1	**18.8**	18.7	0.1
	小学校	6歳	115.6	116.1	△ 0.5	21.2	21.4	△ 0.2
		7歳	121.4	122.1	△ 0.7	23.8	24.2	△ 0.4
		8歳	**127.9**	127.2	0.7	**27.3**	27.0	0.3
		9歳	**132.7**	132.3	0.4	**30.5**	30.2	0.3
		10歳	138.2	138.7	△ 0.5	33.9	34.7	△ 0.8
		11歳	**145.3**	144.0	1.3	**39.3**	37.6	1.7
	中学校	12歳	**151.9**	151.6	0.3	43.7	43.8	△ 0.1
		13歳	159.1	159.3	△ 0.2	**48.9**	48.8	0.1
		14歳	164.5	164.7	△ 0.2	**53.6**	53.5	0.1
	高等学校	15歳	167.7	168.0	△ 0.3	57.5	58.8	△ 1.3
		16歳	**169.5**	169.0	0.5	**60.3**	60.0	0.3
		17歳	169.9	170.0	△ 0.1	62.0	62.2	△ 0.2

区分			身長(cm)			体重(kg)		
			令和元年度	平成30年度	差	令和元年度	平成30年度	差
女子	幼稚園	5歳	**109.0**	108.9	0.1	18.4	18.5	△ 0.1
	小学校	6歳	114.5	114.9	△ 0.4	20.5	20.9	△ 0.4
		7歳	**120.8**	120.6	0.2	**23.5**	23.1	0.4
		8歳	126.5	127.0	△ 0.5	26.1	26.8	△ 0.7
		9歳	**132.8**	132.5	0.3	**30.2**	29.8	0.4
		10歳	139.7	139.9	△ 0.2	33.9	34.3	△ 0.4
		11歳	146.6	146.7	△ 0.1	**39.9**	39.1	0.8
	中学校	12歳	151.5	151.5	0.0	**44.1**	43.6	0.5
		13歳	**154.3**	154.1	0.2	47.3	47.6	△ 0.3
		14歳	**156.3**	156.1	0.2	50.2	50.4	△ 0.2
	高等学校	15歳	**156.4**	156.3	0.1	51.0	51.0	0.0
		16歳	**157.5**	157.0	0.5	**52.1**	51.9	0.2
		17歳	**158.0**	157.5	0.5	**53.4**	53.2	0.2

（注）太字部分は，平成30年度数値を上回ったものである。

2 本県平均値と全国平均値の比較

調査項目52項目（身長・体重2項目×13年齢区分×男・女 ）中，本県平均値が全国平均値を上回っている項目は次の8項目である。

男子		女子	
身長	**体重**	**身長**	**体重**
11歳（＋0．1㎝）	11歳（＋0．6kg）	17歳（＋0．1㎝）	9歳（＋0．2kg）
			11歳（＋0．9kg）
			12歳（＋0．3kg）
			14歳（＋0．1kg）
			17歳（＋0．4kg）

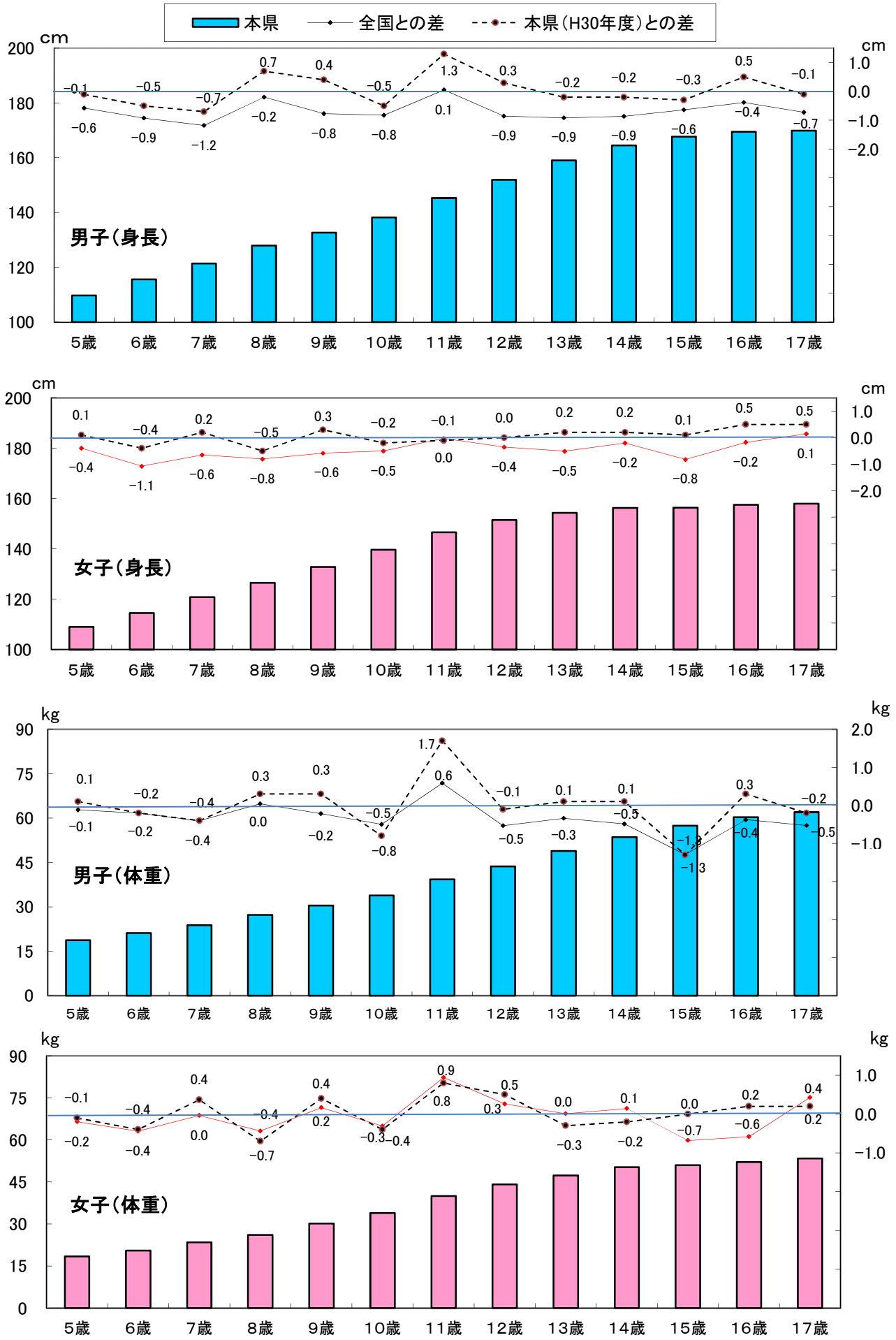
表2 発育状態平均値の比較（全国・鹿児島県）

区分			身長(cm)			体重(kg)		
			本県	全国	差	本県	全国	差
男子	幼稚園	5歳	109.7	110.3	△ 0.6	18.8	18.9	△ 0.1
	小学校	6歳	115.6	116.5	△ 0.9	21.2	21.4	△ 0.2
		7歳	121.4	122.6	△ 1.2	23.8	24.2	△ 0.4
		8歳	127.9	128.1	△ 0.2	27.3	27.3	0.0
		9歳	132.7	133.5	△ 0.8	30.5	30.7	△ 0.2
		10歳	138.2	139.0	△ 0.8	33.9	34.4	△ 0.5
		11歳	**145.3**	145.2	**0.1**	**39.3**	38.7	**0.6**
	中学校	12歳	151.9	152.8	△ 0.9	43.7	44.2	△ 0.5
		13歳	159.1	160.0	△ 0.9	48.9	49.2	△ 0.3
		14歳	164.5	165.4	△ 0.9	53.6	54.1	△ 0.5
	高等学校	15歳	167.7	168.3	△ 0.6	57.5	58.8	△ 1.3
		16歳	169.5	169.9	△ 0.4	60.3	60.7	△ 0.4
		17歳	169.9	170.6	△ 0.7	62.0	62.5	△ 0.5

区分			身長(cm)			体重(kg)		
			本県	全国	差	本県	全国	差
女子	幼稚園	5歳	109.0	109.4	△ 0.4	18.4	18.6	△ 0.2
	小学校	6歳	114.5	115.6	△ 1.1	20.5	20.9	△ 0.4
		7歳	120.8	121.4	△ 0.6	23.5	23.5	0.0
		8歳	126.5	127.3	△ 0.8	26.1	26.5	△ 0.4
		9歳	132.8	133.4	△ 0.6	**30.2**	30.0	**0.2**
		10歳	139.7	140.2	△ 0.5	33.9	34.2	△ 0.3
		11歳	146.6	146.6	0.0	**39.9**	39.0	**0.9**
	中学校	12歳	151.5	151.9	△ 0.4	**44.1**	43.8	**0.3**
		13歳	154.3	154.8	△ 0.5	47.3	47.3	0.0
		14歳	156.3	156.5	△ 0.2	**50.2**	50.1	**0.1**
	高等学校	15歳	156.4	157.2	△ 0.8	51.0	51.7	△ 0.7
		16歳	157.5	157.7	△ 0.2	52.1	52.7	△ 0.6
		17歳	**158.0**	157.9	**0.1**	**53.4**	53.0	**0.4**

（注）年齢は，平成31年4月1日現在の満年齢である。
また，**太字**部分は，全国平均値を上回ったものである。

図1　全国と鹿児島県との差



3 本県の身長･体重の推移（世代間の比較）

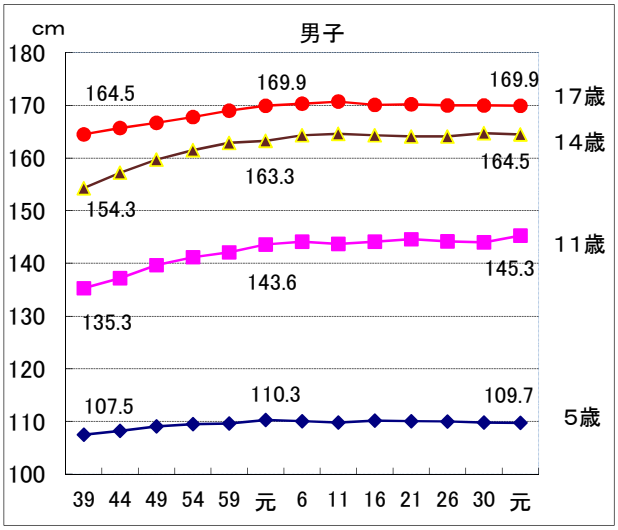
（1） 身長の推移

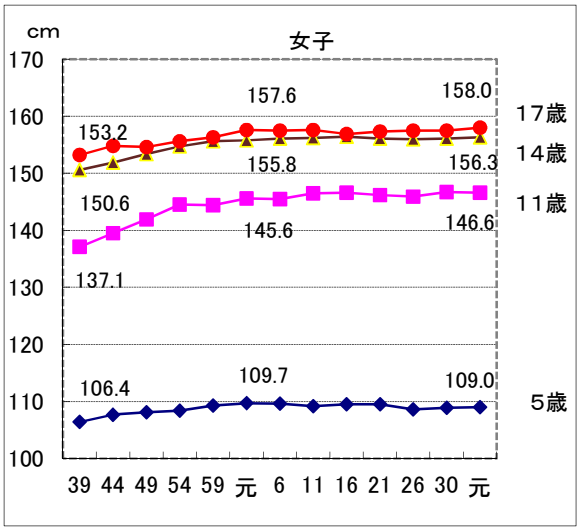
令和元年度の身長を30年前の平成元年度（親の世代）と比べると，最も差のある年齢は男子では12歳で，2.2cm，女子では10歳～12歳で1.0cmそれぞれ高くなっている。

表3 年齢別 身長の平均値

区分			身長（cm） 令和元年度 子世代 (A)	平成元年度 親の世代（30年前） (B)	昭和39年度 祖父母世代（55年前） (C)	(A)-(B)	(B)-(C)
男子	幼稚園	5歳	109.7	110.3	107.5	△ 0.6	2.8
	小学校	6歳	115.6	116.1	110.5	△ 0.5	5.6
		7歳	121.4	121.4	116.3	0.0	5.1
		8歳	127.9	126.9	121.2	1.0	5.7
		9歳	132.7	132.3	125.9	0.4	6.4
		10歳	138.2	137.2	130.6	1.0	6.6
		11歳	145.3	143.6	135.3	1.7	8.3
	中学校	12歳	151.9	149.7	141.0	**2.2**	8.7
		13歳	159.1	157.0	147.6	2.1	**9.4**
		14歳	164.5	163.3	154.3	1.2	9.0
	高等学校	15歳	167.7	167.4	160.8	0.3	6.6
		16歳	169.5	168.6	163.5	0.9	5.1
		17歳	169.9	169.9	164.5	0.0	5.4
女子	幼稚園	5歳	109.0	109.7	106.4	△ 0.7	3.3
	小学校	6歳	114.5	115.4	109.9	△ 0.9	5.5
		7歳	120.8	121.0	114.6	△ 0.2	6.4
		8歳	126.5	126.1	120.3	0.4	5.8
		9歳	132.8	132.0	125.5	0.8	6.5
		10歳	139.7	138.7	131.0	**1.0**	7.7
		11歳	146.6	145.6	137.1	**1.0**	**8.5**
	中学校	12歳	151.5	150.5	143.1	**1.0**	7.4
		13歳	154.3	154.3	147.5	0.0	6.8
		14歳	156.3	155.8	150.6	0.5	5.2
	高等学校	15歳	156.4	156.7	152.6	△ 0.3	4.1
		16歳	157.5	157.4	153.1	0.1	4.3
		17歳	158.0	157.6	153.2	0.4	4.4

図2 年齢別･身長の平均値の推移





平成13年度生まれ（今年度17歳）と30年前の昭和46年度生まれ（親の世代）の発育量を比べると，年間発育量が最大となる時期は，男子については平成13年度生まれが11歳，親の世代は12歳となっている。

女子については，年間発育量が最大になる時期は，平成13年度生まれが9歳，親の世代は10歳となっている。また，平成13年度生まれの最大の発育量を示す年齢は，男子に比べに2歳早くなっている。

表4　平成13年度生まれと昭和46年度生まれの者の年間発育量の推移（身長）（cm）

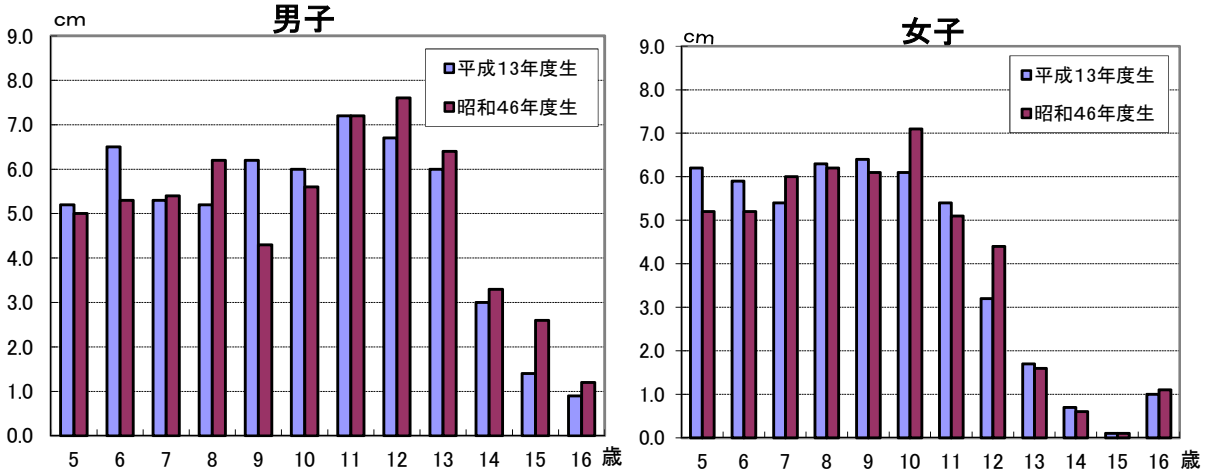
区　　分		男　　子		女　　子	
		平成13年度生まれ（令和元年度17歳）	昭和46年度生まれ（親の世代の17歳）	平成13年度生まれ（令和元年度17歳）	昭和46年度生まれ（親の世代の17歳）
総　発　育　量		59.6	60.1	48.4	48.7
幼稚園　5歳時（5歳～6歳）		5.2	5.0	6.2	5.2
小学校	6歳時	6.5	5.3	5.9	5.2
	7　〃	5.3	5.4	5.4	6.0
	8　〃	5.2	6.2	6.3	6.2
	9　〃	6.2	4.3	**6.4**	6.1
	10　〃	6.0	5.6	6.1	**7.1**
	11　〃	**7.2**	7.2	5.4	5.1
中学校	12　〃	6.7	**7.6**	3.2	4.4
	13　〃	6.0	6.4	1.7	1.6
	14　〃	3.0	3.3	0.7	0.6
高校	15　〃	1.4	2.6	0.1	0.1
	16　〃	0.9	1.2	1.0	1.1

（注）**太字**部分は，年間発育量が最大となった時期の数値である。

（注）年間発育量とは，例えば，平成13年度生まれの者の「5歳時」の年間発育量は，平成20年度調査 6歳の者の身長から平成19年度調査 5歳の者の身長を引いたものである。

0歳	平成13年度生まれ
5歳	平成18年度年齢　（平成19年度調査）
6歳	平成19年度年齢　（平成20年度調査）

図3　平成13年度生まれと昭和46年度生まれの者の年間発育量の比較（身長）



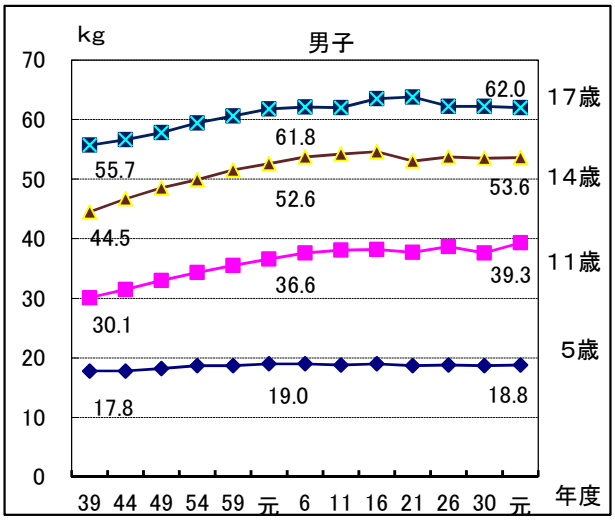
（2） 体重の推移

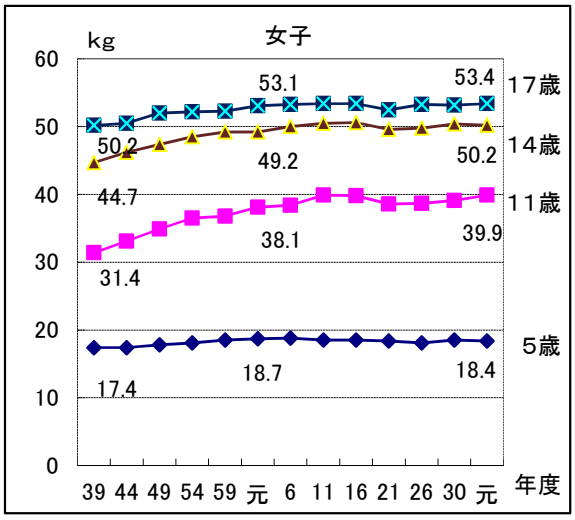
令和元年度の体重を30年前の平成元年度（親の世代）と比べると，最も差のある年齢は，男子では11歳で2.7kg，女子も同じく11歳で1.8kgそれぞれ重くなっている。

表5 年齢別 体重の平均値

区分			体重(kg) 令和元年度 子世代 (A)	平成元年度 親の世代（30年前） (B)	昭和39年度 祖父母世代（55年前） (C)	(A)-(B)	(B)-(C)
男子	幼稚園	5歳	18.8	19.0	17.8	△ 0.2	1.2
	小学校	6歳	21.2	21.2	18.7	0.0	2.5
		7歳	23.8	23.3	20.7	0.5	2.6
		8歳	27.3	26.2	22.8	1.1	3.4
		9歳	30.5	29.3	25.0	1.2	4.3
		10歳	33.9	31.9	27.4	2.0	4.5
		11歳	39.3	36.6	30.1	**2.7**	6.5
	中学校	12歳	43.7	41.1	33.8	2.6	7.3
		13歳	48.9	47.0	38.6	1.9	**8.4**
		14歳	53.6	52.6	44.5	1.0	8.1
	高等学校	15歳	57.5	57.6	50.4	△ 0.1	7.2
		16歳	60.3	59.5	53.9	0.8	5.6
		17歳	62.0	61.8	55.7	0.2	6.1
女子	幼稚園	5歳	18.4	18.7	17.4	△ 0.3	1.3
	小学校	6歳	20.5	20.7	18.3	△ 0.2	2.4
		7歳	23.5	23.1	20.1	0.4	3.0
		8歳	26.1	25.7	22.4	0.4	3.3
		9歳	30.2	28.9	24.7	1.3	4.2
		10歳	33.9	32.8	27.6	1.1	5.2
		11歳	39.9	38.1	31.4	**1.8**	**6.7**
	中学校	12歳	44.1	42.8	36.5	1.3	6.3
		13歳	47.3	46.9	40.7	0.4	6.2
		14歳	50.2	49.2	44.7	1.0	4.5
	高等学校	15歳	51.0	51.7	47.2	△ 0.7	4.5
		16歳	52.1	52.5	49.3	△ 0.4	3.2
		17歳	53.4	53.1	50.2	0.3	2.9

図4 年齢別・体重の平均値の推移





平成13年度生まれ(今年度17歳)と30年前の昭和46年度生まれ(親の世代)の発育量を比べると，年間発育量が最大となる時期は，男子については，平成13年度生まれが11歳，親の世代は13歳となっている。女子については，年間発育量が最大になる時期は，平成13年度生まれが11歳，親の世代は10歳となっている。また，平成13年度生まれの最大の発育量を示す年齢は，男子も女子も11歳となっている。

表6　平成13年度生まれと昭和46年度生まれの者の年間発育量の推移(体重)(kg)

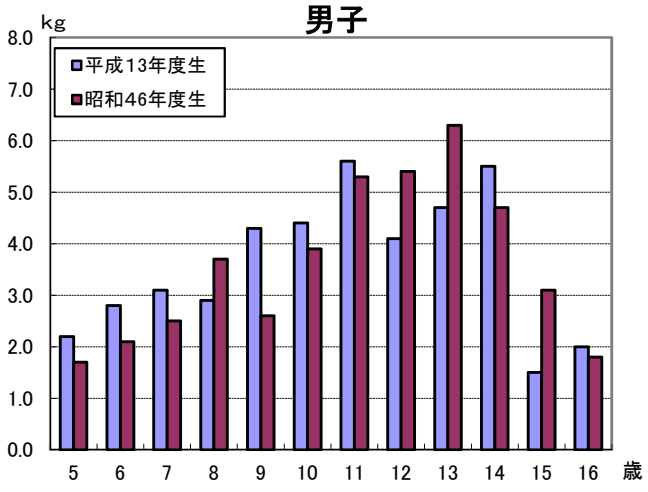
区　分		男　子		女　子	
		平成13年度生まれ(令和元年度17歳)	昭和46年度生まれ(親の世代の17歳)	平成13年度生まれ(令和元年度17歳)	昭和46年度生まれ(親の世代の17歳)
総発育量		43.1	43.1	35.0	34.9
幼稚園 5歳時(5歳～6歳)		2.2	1.7	2.8	1.8
小学校	6歳時	2.8	2.1	2.5	2.2
	7 〃	3.1	2.5	2.9	2.8
	8 〃	2.9	3.7	3.5	3.1
	9 〃	4.3	2.6	4.0	3.8
	10 〃	4.4	3.9	4.6	**5.0**
	11 〃	**5.6**	5.3	**4.9**	4.7
中学校	12 〃	4.1	5.4	3.7	4.9
	13 〃	4.7	**6.3**	3.2	3.3
	14 〃	5.5	4.7	1.0	1.8
高等学校	15 〃	1.5	3.1	0.4	0.5
	16 〃	2.0	1.8	1.5	1.0

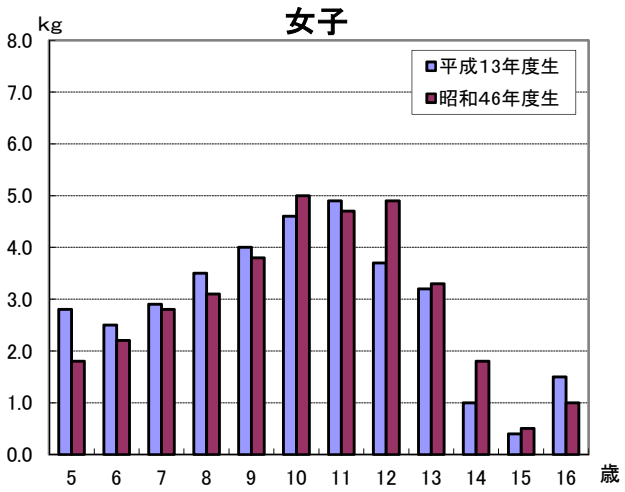
(注)　太字部分は，年間発育量が最大となった時期の数値である。

(注)　年間発育量とは，例えば，平成13年度生まれの者の「5歳時」の年間発育量は，平成20年度調査 6歳の者の体重から平成19年度調査 5歳の者の体重を引いたものである。

0歳	平成13年度生まれ
5歳	平成18年度年齢　(平成19年度調査)
6歳	平成19年度年齢　(平成20年度調査)

図5　平成13年度生まれと昭和46年度生まれの者の年間発育量の比較(体重)





Ⅱ　健康状態調査等

1　疾病・異常の被患率等別状況

疾病・異常を被患率等別にみると，小学校では「むし歯（う歯）」の割合が最も高く，次いで「裸眼視力1.0未満」の順となっている。また，中学校・高等学校では「裸眼視力1.0未満」の割合が最も高く，次いで「むし歯（う歯）」の順となっている。

表1　疾病・異常の被患率

区分（%）	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
60以上～70未満				裸眼視力1.0未満
50～60		むし歯（う歯）	裸眼視力1.0未満	むし歯（う歯）
40～50	むし歯（う歯）		むし歯（う歯）	
30～40		裸眼視力1.0未満		
20～30				
10～20		鼻・副鼻腔疾患	鼻・副鼻腔疾患	鼻・副鼻腔疾患
8～10		歯・口腔のその他の疾病・異常 耳疾患		歯肉の状態
6～ 8			眼の疾病・異常	歯垢の状態 歯列・咬合
4～ 6	耳疾患 鼻・副鼻腔疾患	眼の疾病・異常 歯列・咬合	蛋白検出の者 歯肉の状態 耳疾患 歯垢の状態 歯・口腔のその他の疾病・異常 歯列・咬合	その他の疾病・異常
2～ 4	歯列・咬合 その他の皮膚疾患	歯垢の状態 ぜん息 その他の疾病・異常 歯肉の状態 アトピー性皮膚炎	心電図異常	眼の疾病・異常 蛋白検出の者 心電図異常 耳疾患 アトピー性皮膚炎 ぜん息
1～ 2	アトピー性皮膚炎 ぜん息 口腔咽喉頭疾患・異常	心電図異常 口腔咽喉頭疾患・異常 栄養状態 心臓の疾病・異常	その他の疾病・異常 栄養状態 アトピー性皮膚炎	歯・口腔のその他の疾病・異常 心臓の疾病・異常
0.5～ 1	歯・口腔のその他の疾病・異常 眼の疾病・異常 蛋白検出の者	蛋白検出の者 難聴 言語障害	心臓の疾病・異常 ぜん息 せき柱・胸郭・四肢の状態 口腔咽喉頭疾患・異常	せき柱・胸郭・四肢の状態 顎関節
0.1～0.5	心臓の疾病・異常 顎関節 せき柱・胸郭・四肢の状態	顎関節 せき柱・胸郭・四肢の状態 結核の精密検査の対象者 尿糖検出の者 腎臓疾患 その他の皮膚疾患	顎関節 難聴 尿糖検出の者 その他の皮膚疾患 腎臓疾患	その他の皮膚疾患 腎臓疾患 難聴 栄養状態 尿糖検出の者 口腔咽喉頭の疾患・異常 言語障害 結核
0．1未満			結核の精密検査の対象者 言語障害	
X	裸眼視力1.0未満			

（注）1 「口腔咽喉頭疾患・異常」とは，アデノイド，へんとう肥大，咽頭炎，喉頭炎，へんとう炎，音声言語異常等のある者である。

2 「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは，口角炎，口唇炎，口内炎，唇裂，口蓋裂，舌小帯異常，だ石，癒合歯，要注意乳歯等のある者である。

3 「心電図異常」とは，心電図検査の結果，異常と判定された者である。

4 「その他の皮膚疾患」とは，伝染性皮膚疾患，毛髪疾患等，アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。

5 「その他の疾病・異常」とは，本調査のいずれの調査項目にも該当しない疾病及び異常（例えば貧血，てんかん，ダウン症，筋ジストロフィー等）である。

6 「X」は，疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上，受検者数が100人（5歳50人）未満又は回答校が1校以下のため，統計数値を公表しない取扱いであることを示す。

7 「せき柱・胸郭・四肢の状態」については，平成27年までは「せき柱・胸郭」のみを調査

2 主な疾病･異常等の推移

疾病･異常等のうち，主なものについては次表のとおりである。

表2 主な疾病･異常等の推移 （単位:%）

区分		むし歯（う歯）	裸眼視力1.0未満の者	蛋白検出の者	耳疾患	鼻・副鼻腔疾患	ぜんそく	心電図異常	口腔咽喉頭疾患・異常	アトピー性皮膚炎
幼稚園	平成27年度	X	X	0.3	4.2	7.7	1.4	…	0.7	2.1
	28	38.8	X	0.5	0.6	1.8	2.9	…	0.1	2.3
	29	X	X	1.9	0.2	2.5	0.4	…	－	1.4
	30	40.6	X	0.7	0.6	1.6	2.0	…	－	0.7
	令和元年度	**43.1**	X	**0.5**	**5.6**	**4.5**	**1.4**	**…**	**1.0**	**1.9**
小学校	平成27年度	58.7	31.8	0.6	5.8	22.3	3.1	1.6	0.4	1.9
	28	58.7	30.5	0.7	6.7	19.6	2.9	1.6	0.8	1.9
	29	61.2	31.1	1.2	7.4	19.1	2.6	2.8	1.1	1.7
	30	56.1	32.0	0.6	9.2	21.9	2.5	1.6	0.8	1.5
	令和元年度	**54.5**	**31.5**	**0.8**	**8.0**	**15.3**	**3.2**	**1.8**	**1.5**	**2.0**
中学校	平成27年度	50.7	51.7	2.5	5.9	19.2	2.7	2.5	1.0	2.0
	28	48.7	55.9	2.8	6.3	18.2	1.2	2.1	0.5	1.0
	29	49.6	55.6	2.3	4.9	20.6	1.1	2.0	0.6	1.0
	30	43.7	54.4	2.5	4.7	15.7	1.6	2.8	0.4	1.3
	令和元年度	**45.8**	**58.6**	**5.7**	**5.1**	**14.0**	**0.8**	**2.0**	**0.5**	**1.2**
高等学校	平成27年度	65.6	58.7	3.1	2.0	12.0	1.2	3.0	0.5	1.9
	28	65.1	66.1	3.0	1.8	14.7	1.9	4.6	0.1	2.4
	29	57.5	69.4	4.1	3.4	16.1	2.5	2.3	0.6	2.8
	30	56.0	68.0	4.0	1.7	10.9	2.6	3.6	0.1	2.7
	令和元年度	**55.1**	**68.8**	**3.3**	**2.6**	**12.5**	**2.1**	**3.2**	**0.2**	**2.3**

（注） ① 数値は，小数点以下第2位を四捨五入している。（以下同じ。）

② 「X」は，疾病･異常被患率等の標準誤差が5%以上，受検者数が100人(5歳50人)未満又は回答校が1校以下のため統計数値を公表しない取扱いであることを示す。

③ 心電図異常については，6歳，12歳，15歳のみ調査対象としている。

（1） むし歯（う歯）

① 令和元年度の「むし歯（う歯）」の者の割合（処置完了者を含む。）は，幼稚園43.1％，小学校54.5％，中学校45.8％，高等学校55.1％と，小学校，高等学校では前年度より減少しているが，幼稚園，中学校では増加している。

「処置完了者」，「未処置歯のある者」の割合についても，小学校，高等学校では前年度より減少しているが，幼稚園，中学校では増加している。

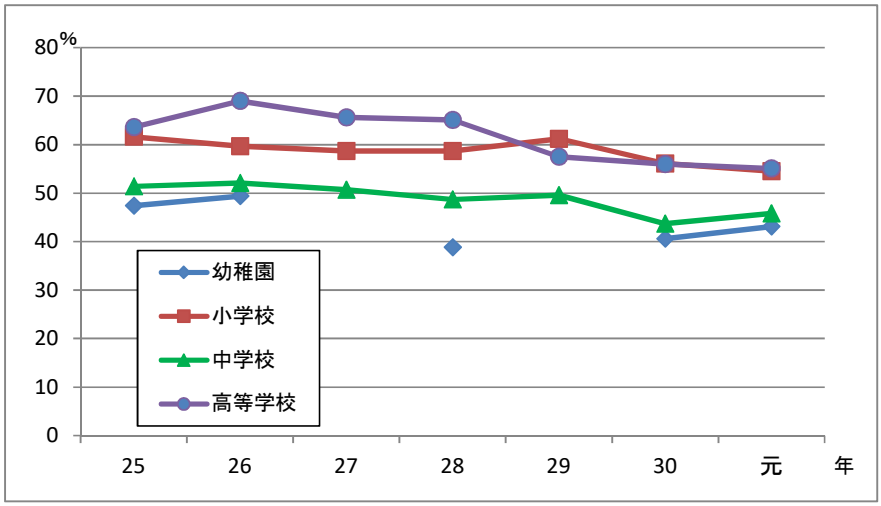
また，「むし歯（う歯）」の者の割合を全国と比べると，全ての学校段階で全国平均を上回っている。

表3 むし歯（う歯）の者の割合の推移 （単位：％）

区分	年度	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30 A	令和元 B	前年度との差 B－A	全国（令和元） C	全国との差 B－C
幼稚園	計	47.4	49.4	X	38.8	X	40.6	43.1	2.5	31.2	11.9
	処置完了者	19.3	19.5	X	15.0	X	18.2	18.6	0.4	12.0	6.6
	未処置歯のある者	28.2	30.0	X	23.7	X	22.4	24.5	2.1	19.2	5.3
小学校	計	61.6	59.7	58.7	58.7	61.2	56.1	54.5	△ 1.6	44.8	9.7
	処置完了者	27.5	28.0	26.3	24.4	27.8	25.8	24.3	△ 1.5	23.1	1.2
	未処置歯のある者	34.0	31.7	32.5	34.3	33.4	30.3	30.2	△ 0.1	21.7	8.5
中学校	計	51.4	52.1	50.7	48.7	49.6	43.7	45.8	2.1	34.0	11.8
	処置完了者	28.6	25.5	25.3	26.2	25.5	24.1	24.4	0.3	19.8	4.6
	未処置歯のある者	22.8	26.5	25.4	22.5	24.1	19.5	21.4	1.9	14.2	7.2
高等学校	計	63.6	69.0	65.6	65.1	57.5	56.0	55.1	△ 0.9	43.7	11.4
	処置完了者	38.1	34.3	33.6	32.0	31.3	29.3	28.7	△ 0.6	26.4	2.3
	未処置歯のある者	25.5	34.7	32.0	33.1	26.1	26.7	26.4	△ 0.3	17.3	9.1

（注）「X」は，疾病・異常被患率等の標準誤差が5％以上，受検者数が100人（5歳50人）未満又は回答校が1校以下のため，統計数値を公表しない取扱いであることを示す。

図1 年度別・むし歯の者の推移
（処置完了者+未処置者）



② 12歳の永久歯の1人当たり平均むし歯（う歯）等数（喪失歯及び処置歯数を含む）は，次表のとおりである。

表4 12歳の永久歯の1人当たり平均むし歯（う歯）等数 （単位：本）

区分＼年度			平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30 A	令和元 B	前年度差B-A	全国（令和元） C	全国との差 B－C
計	喪失歯数		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	むし歯（う歯）	処置歯数	0.7	0.8	0.8	0.8	0.8	0.6	0.7	0.1	0.5	0.2
		未処置歯数	0.5	0.5	0.4	0.5	0.5	0.4	0.4	0.0	0.2	0.2
		計	1.2	1.3	1.2	1.3	1.3	1.0	1.0	0.0	0.7	0.3
	合計		1.2	1.3	1.3	1.3	1.4	1.0	1.1	0.1	0.7	0.4
男子	喪失歯数		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	むし歯（う歯）	処置歯数	0.7	0.7	0.8	0.7	0.8	0.6	0.6	0.0	0.4	0.2
		未処置歯数	0.4	0.5	0.4	0.4	0.6	0.4	0.4	0.0	0.2	0.2
		計	1.2	1.2	1.2	1.1	1.4	0.9	1.0	0.1	0.6	0.4
	合計		1.2	1.2	1.2	1.1	1.4	0.9	1.0	0.1	0.6	0.4
女子	喪失歯数		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	むし歯（う歯）	処置歯数	0.7	0.9	0.8	0.9	0.8	0.7	0.7	0.0	0.5	0.2
		未処置歯数	0.5	0.5	0.4	0.6	0.5	0.4	0.4	0.0	0.3	0.1
		計	1.2	1.4	1.3	1.5	1.3	1.1	1.1	0.0	0.8	0.3
	合計		1.3	1.4	1.3	1.5	1.3	1.1	1.1	0.0	0.8	0.3

※ 端数処理の関係で合計が一致していないところがある。

（2） 裸眼視力

「裸眼視力1.0未満」の者の割合及び内訳は次表のとおりである。

令和元年度「裸眼視力1.0未満の者」の割合を前年度と比べると，9歳～11歳，16歳で減少している。

表5 裸眼視力1.0未満の者の割合 （単位：%）

区分		年齢	令和元年度 A				平成30年度 B				前年度との比較A－B				全国（令和元年度） C				全国との差A－C			
			計	1.0未満0.7以上	0.7未満0.3以上	0.3未満	計	1.0未満0.7以上	0.7未満0.3以上	0.3未満	計	1.0未満0.7以上	0.7未満0.3以上	0.3未満	計	1.0未満0.7以上	0.7未満0.3以上	0.3未満	計	1.0未満0.7以上	0.7未満0.3以上	0.3未満
計	幼稚園	5	X	X	X	X	X	X	X	X	－	－	－	－	26.1	18.4	7.0	0.6	－	－	－	－
	小学校	計	31.5	12.3	11.2	8.1	32.0	12.4	11.0	8.6	△ 0.5	△ 0.1	0.2	△ 0.5	34.6	12.0	13.2	9.4	△ 3.1	0.3	△ 2.0	△ 1.3
		6	21.4	13.6	6.6	1.2	21.2	16.0	4.8	0.4	0.2	△ 2.4	1.8	0.8	21.9	14.0	6.6	1.3	△ 0.5	△ 0.4	0.0	△ 0.1
		7	21.8	12.3	7.4	2.0	21.6	11.8	7.3	2.6	0.2	0.5	0.1	△ 0.6	25.6	13.1	9.2	3.3	△ 3.8	△ 0.8	△ 1.8	△ 1.3
		8	29.8	12.4	10.6	6.8	28.0	13.4	9.4	5.2	1.8	△ 1.0	1.2	1.6	31.3	12.0	12.5	6.9	△ 1.5	0.4	△ 1.9	△ 0.1
		9	33.1	12.1	13.7	7.3	36.8	13.1	14.0	9.7	△ 3.7	△ 1.0	△ 0.3	△ 2.4	37.2	11.2	15.0	11.1	△ 4.1	0.9	△ 1.3	△ 3.8
		10	38.1	11.8	12.6	13.8	39.1	10.4	14.8	14.0	△ 1.0	1.4	△ 2.2	△ 0.2	42.6	11.8	16.3	14.5	△ 4.5	0.0	△ 3.7	△ 0.7
		11	44.8	11.5	16.3	17.0	45.3	9.5	15.9	19.8	△ 0.5	2.0	0.4	△ 2.8	47.8	10.2	19.0	18.6	△ 3.0	1.3	△ 2.7	△ 1.6
	中学校	計	58.6	9.9	13.2	35.5	54.4	9.9	14.1	30.4	4.2	0.0	△ 0.9	5.1	57.5	12.7	17.7	27.1	1.1	△ 2.8	△ 4.5	8.4
		12	52.6	9.5	14.3	28.8	49.5	11.3	15.0	23.3	3.1	△ 1.8	△ 0.7	5.5	51.5	12.4	17.5	21.6	1.1	△ 2.9	△ 3.2	7.2
		13	58.9	10.0	13.5	35.4	53.5	9.0	13.7	30.8	5.4	1.0	△ 0.2	4.6	58.9	11.7	17.8	29.4	0.0	△ 1.7	△ 4.3	6.0
		14	64.5	10.1	11.9	42.5	60.0	9.6	13.6	36.8	4.5	0.5	△ 1.7	5.7	62.3	14.0	17.8	30.5	2.2	△ 3.9	△ 5.9	12.0
	高等学校	計	68.8	5.9	11.1	51.9	68.0	8.0	13.9	46.1	0.8	△ 2.1	△ 2.8	5.8	67.6	11.3	17.4	39.0	1.2	△ 5.4	△ 6.3	12.9
		15	70.6	8.1	11.3	51.2	68.1	8.2	14.2	45.7	2.5	△ 0.1	△ 2.9	5.5	68.1	13.2	19.1	35.8	2.5	△ 5.1	△ 7.8	15.4
		16	64.5	4.8	9.1	50.6	68.0	X	X	X	△ 3.5	－	－	－	67.4	9.7	16.4	41.3	△ 2.9	－	－	－
		17	71.3	4.7	12.9	53.7	67.7	X	X	X	3.6	－	－	－	67.4	10.8	16.7	39.9	3.9	－	－	－

（注）「X」は，疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上，受検者数が100人（5歳50人）未満又は回答校が1校以下のため，統計数値を公表しない取扱いであることを示す。

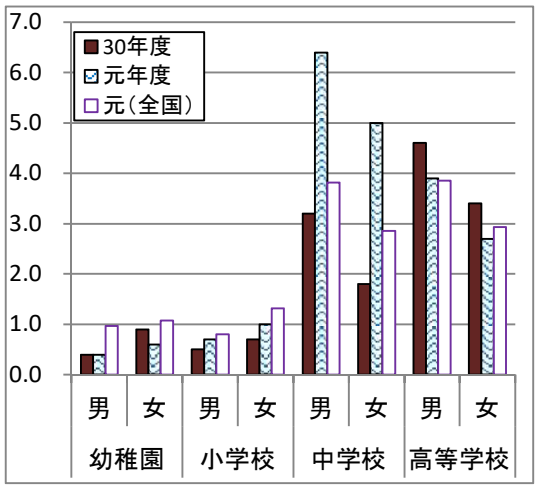
（3） 蛋白検出

「蛋白検出」の者の割合を前年度と比べると，男子，女子とも小学校，中学校で増加している。

（単位：%）

年度		27	28	29	30	元	元(全国)
計	幼稚園	0.3	0.5	1.9	0.7	0.5	1.0
	小学校	0.6	0.7	1.2	0.6	0.8	1.0
	中学校	2.5	2.8	2.3	2.5	5.7	3.4
	高等学校	3.1	3.0	4.1	4.0	3.3	3.4
男子	幼稚園	0.5	0.4	1.6	0.4	0.4	1.0
	小学校	0.5	0.5	0.9	0.5	0.7	0.8
	中学校	3.0	3.3	2.8	3.2	6.4	3.8
	高等学校	3.9	3.1	4.9	4.6	3.9	3.9
女子	幼稚園	0.1	0.6	2.3	0.9	0.6	1.1
	小学校	0.8	0.9	1.6	0.7	1.0	1.3
	中学校	2.0	2.2	1.9	1.8	5.0	2.9
	高等学校	2.2	3.0	3.2	3.4	2.7	2.9

図2 蛋白の検出 （単位：%）



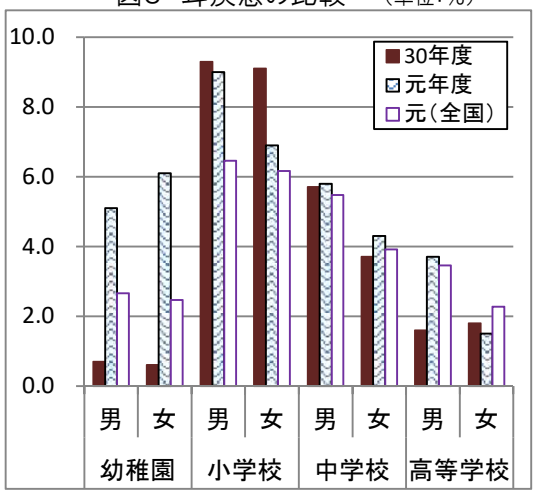
（4） 耳疾患

「耳疾患」の者の割合を前年度と比べると，男子は幼稚園，中学校，高等学校で，女子は幼稚園，中学校で増加している。

（単位：%）

年度		27	28	29	30	元	元(全国)
計	幼稚園	4.2	0.6	0.2	0.6	5.6	2.6
	小学校	5.8	6.7	7.4	9.2	8.0	6.3
	中学校	5.9	6.3	4.9	4.7	5.1	4.7
	高等学校	2.0	1.8	3.4	1.7	2.6	2.9
男子	幼稚園	6.3	0.2	0.4	0.7	5.1	2.7
	小学校	5.6	6.7	7.6	9.3	9.0	6.5
	中学校	5.8	7.3	5.8	5.7	5.8	5.5
	高等学校	2.2	2.6	4.1	1.6	3.7	3.5
女子	幼稚園	2.0	0.9	－	0.6	6.1	2.5
	小学校	6.0	6.6	7.2	9.1	6.9	6.2
	中学校	6.0	5.3	3.9	3.7	4.3	3.9
	高等学校	1.8	1.0	2.7	1.8	1.5	2.3

図3 耳疾患の比較 （単位：%）



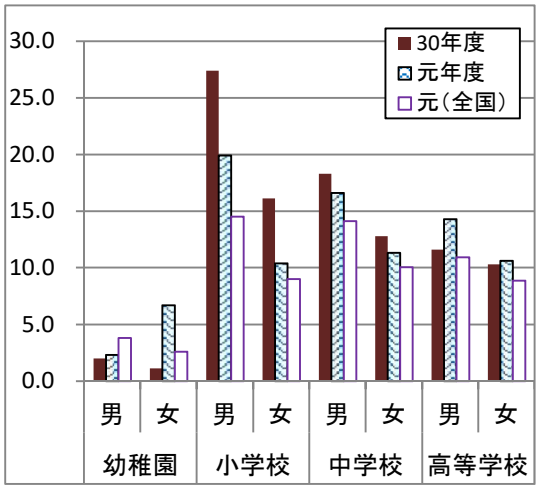
（5） 鼻・副鼻腔疾患

「鼻・副鼻腔疾患」の者の割合を前年度と比べると，男子，女子ともに，幼稚園，高等学校で増加している。

（単位：%）

年度		27	28	29	30	元	元(全国)
計	幼稚園	7.7	1.8	2.5	1.6	4.5	3.2
	小学校	22.3	19.6	19.1	21.9	15.3	11.8
	中学校	19.2	18.2	20.6	15.7	14.0	12.1
	高等学校	12.0	14.7	16.1	10.9	12.5	9.9
男子	幼稚園	10.0	2.5	3.0	2.0	2.3	3.8
	小学校	27.1	24.8	23.1	27.4	19.9	14.5
	中学校	22.8	21.1	24.0	18.3	16.6	14.1
	高等学校	14.3	13.8	17.2	11.6	14.3	10.9
女子	幼稚園	5.3	1.2	2.1	1.1	6.7	2.6
	小学校	17.3	14.0	14.9	16.1	10.4	9.0
	中学校	15.5	15.1	17.0	12.8	11.3	10.1
	高等学校	9.7	X	15.0	10.3	10.6	8.9

図4 鼻・副鼻腔疾患の比較 （単位：%）



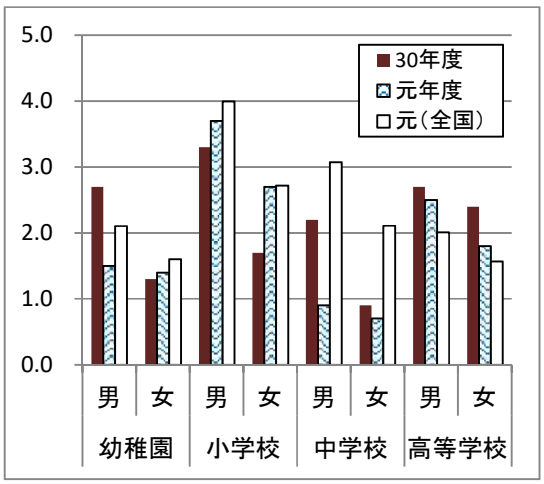
（6） ぜん息

「ぜん息」の者の割合を前年度と比べると，男子は小学校，女子は幼稚園，小学校で増加している。

（単位：%）

年度		27	28	29	30	元	元(全国)
計	幼稚園	1.4	2.9	0.4	2.0	1.4	1.8
	小学校	3.1	2.9	2.6	2.5	3.2	3.4
	中学校	2.7	1.2	1.1	1.6	0.8	2.6
	高等学校	1.2	1.9	2.5	2.6	2.1	1.8
男子	幼稚園	1.9	2.9	0.6	2.7	1.5	2.1
	小学校	3.5	3.3	3.0	3.3	3.7	4.0
	中学校	3.5	1.7	1.4	2.2	0.9	3.1
	高等学校	1.2	1.8	2.8	2.7	2.5	2.0
女子	幼稚園	1.0	2.9	0.2	1.3	1.4	1.6
	小学校	2.7	2.5	2.2	1.7	2.7	2.7
	中学校	1.7	0.8	0.9	0.9	0.7	2.1
	高等学校	1.2	2.0	2.2	2.4	1.8	1.6

図5 ぜん息の比較 （単位：%）



（7） 心電図異常

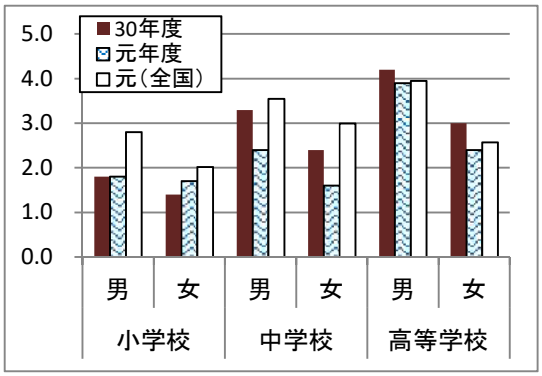
「心電図異常」の者の割合を前年度と比べると，小学校の女子のみ増加している。

（単位：%）

年度		27	28	29	30	元	元(全国)
計	小学校	1.6	1.6	2.8	1.6	1.8	2.4
	中学校	2.5	2.1	2.0	2.8	2.0	3.3
	高等学校	3.0	4.6	2.3	3.6	3.2	3.3
男子	小学校	1.8	2.3	2.7	1.8	1.8	2.8
	中学校	2.6	2.4	2.8	3.3	2.4	3.5
	高等学校	3.4	5.4	3.1	4.2	3.9	3.9
女子	小学校	1.4	0.8	3.0	1.4	1.7	2.0
	中学校	2.3	1.7	1.1	2.4	1.6	3.0
	高等学校	2.7	3.9	1.6	3.0	2.4	2.6

（注）心電図異常については，6歳，12歳，15歳のみ調査対象としている。

図6 心電図の割合 （単位：%）



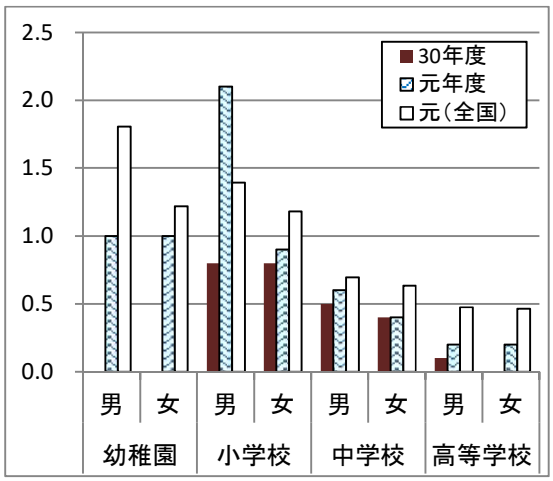
（8） 口腔咽喉頭疾患・異常

「口腔咽喉頭疾患・異常」の者の割合を前年度と比べると，男子は小学校，中学校，高等学校で，女子は小学校，高等学校で増加している。

（単位：%）

年度		27	28	29	30	元	元(全国)
計	幼稚園	0.7	0.1	－	－	1.0	1.5
	小学校	0.4	0.8	1.1	0.8	1.5	1.3
	中学校	1.0	0.5	0.6	0.4	0.5	0.7
	高等学校	0.5	0.1	0.6	0.1	0.2	0.5
男子	幼稚園	1.3	0.2	－	－	1.0	1.8
	小学校	0.5	0.8	0.9	0.8	2.1	1.4
	中学校	1.4	0.5	0.5	0.5	0.6	0.7
	高等学校	0.7	0.0	0.4	0.1	0.2	0.5
女子	幼稚園	－	－	－	－	1.0	1.2
	小学校	0.3	0.7	1.3	0.8	0.9	1.2
	中学校	0.5	0.5	0.6	0.4	0.4	0.6
	高等学校	0.3	0.1	0.8	0.0	0.2	0.5

図7 口腔咽喉頭疾患・異常 （単位：%）



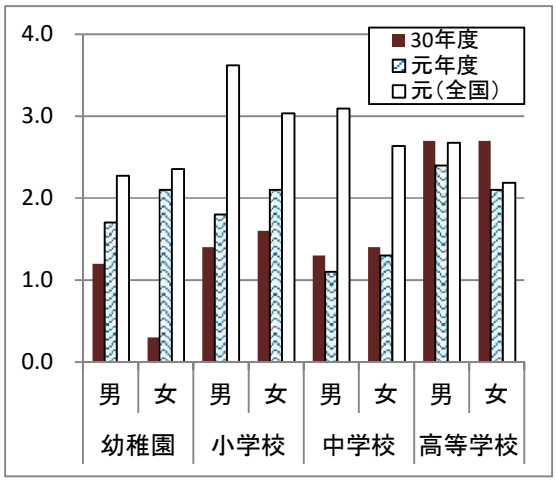
（9） アトピー性皮膚炎

「アトピー性皮膚炎」を前年度と比べると，男子・女子ともに，幼稚園，小学校で増加している。

（単位：%）

年度		27	28	29	30	元	元(全国)
計	幼稚園	2.1	2.3	1.4	0.7	1.9	2.3
	小学校	1.9	1.9	1.7	1.5	2.0	3.3
	中学校	2.0	1.0	1.0	1.3	1.2	2.9
	高等学校	1.9	2.4	2.8	2.7	2.3	2.4
男子	幼稚園	1.9	2.4	1.4	1.2	1.7	2.3
	小学校	1.9	2.0	1.8	1.4	1.8	3.6
	中学校	2.3	0.9	1.0	1.3	1.1	3.1
	高等学校	1.6	2.1	2.8	2.7	2.4	2.7
女子	幼稚園	2.3	2.1	1.3	0.3	2.1	2.4
	小学校	1.9	1.7	1.6	1.6	2.1	3.0
	中学校	1.7	1.0	1.1	1.4	1.3	2.6
	高等学校	2.2	2.6	2.9	2.7	2.1	2.2

図8 アトピー性皮膚炎 （単位：%）



Ⅲ　肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

1　肥満傾向児の出現率

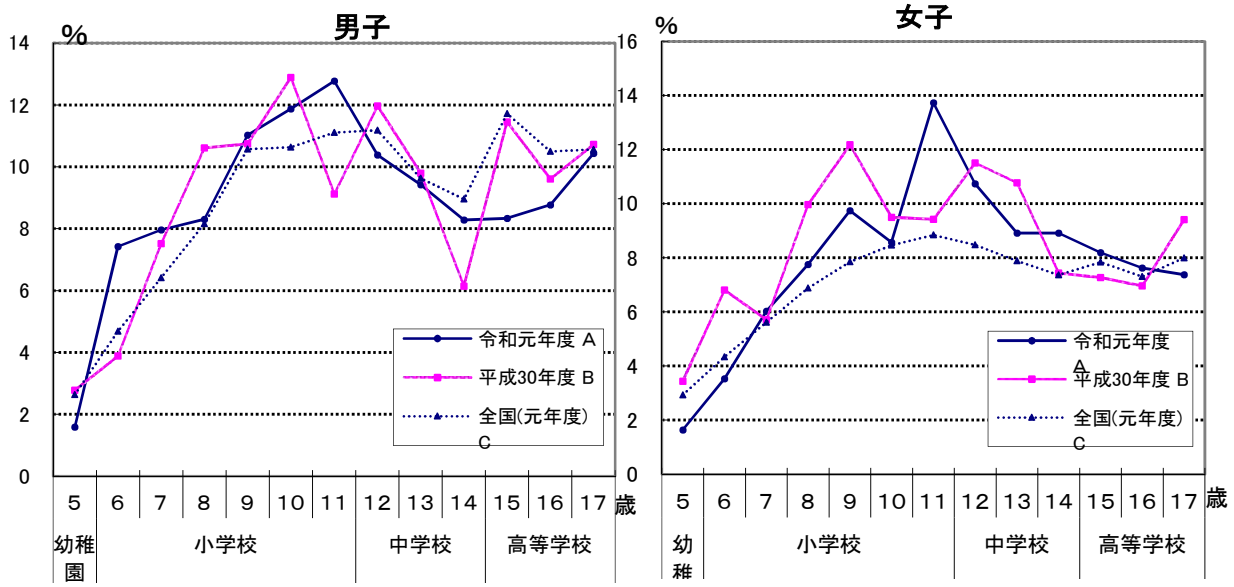
前年度と比べると，男子では5つの年齢階層で増加し，8つの年齢階層で減少している。
女子でも同じく5つの年齢階層で増加し，8つの年齢階層で減少している。
全国と比べると，男子では6つの年齢階層で上回っており，7つの年齢階層で下回っている。
女子では10の年齢階層で上回っており，3つの年齢階層で下回っている。

表1　肥満傾向児の割合　　（単位：%）

区分		年齢	令和元年度 A	平成30年度 B	前年度差 A－B	全国(元年度) C	全国との差 A－C
男子	幼稚園	5	1.59	2.78	△ 1.19	2.63	△ 1.04
	小学校	6	7.42	3.89	3.53	4.68	2.74
		7	7.96	7.52	0.44	6.41	1.55
		8	8.30	10.61	△ 2.31	8.16	0.14
		9	11.03	10.75	0.28	10.57	0.46
		10	11.87	12.89	△ 1.02	10.63	1.24
		11	12.77	9.12	3.65	11.11	1.66
	中学校	12	10.38	11.97	△ 1.59	11.18	△ 0.80
		13	9.42	9.79	△ 0.37	9.63	△ 0.21
		14	8.28	6.14	2.14	8.96	△ 0.68
	高等学校	15	8.34	11.45	△ 3.11	11.72	△ 3.38
		16	8.77	9.61	△ 0.84	10.50	△ 1.73
		17	10.44	10.73	△ 0.29	10.56	△ 0.12
女子	幼稚園	5	1.64	3.44	△ 1.80	2.93	△ 1.29
	小学校	6	3.53	6.81	△ 3.28	4.33	△ 0.80
		7	6.03	5.71	0.32	5.61	0.42
		8	7.76	9.97	△ 2.21	6.88	0.88
		9	9.74	12.18	△ 2.44	7.85	1.89
		10	8.57	9.50	△ 0.93	8.46	0.11
		11	13.73	9.42	4.31	8.84	4.89
	中学校	12	10.74	11.51	△ 0.77	8.48	2.26
		13	8.91	10.77	△ 1.86	7.88	1.03
		14	8.91	7.43	1.48	7.37	1.54
	高等学校	15	8.19	7.27	0.92	7.84	0.35
		16	7.63	6.96	0.67	7.30	0.33
		17	7.38	9.41	△ 2.03	7.99	△ 0.61

（注）「肥満傾向児」とは，性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め，　肥満度が20%以上の者である。
肥満度＝（実測体重－身長別標準体重）／身長別標準体重×100（%）

図1　年齢別肥満傾向児の出現率の推移



2 痩身傾向児の出現率

前年度と比べると，男子では7つの年齢階層で増加し，4つの年齢階層で減少している。
女子では3つの年齢階層で増加し，8つの年齢階層で減少している。
全国と比べると，男子では2つの年齢階層で上回っており，10の年齢階層で下回っている。
女子では2つの年齢階層で上回っており，11の年齢階層で下回っている。

表2　痩身傾向児の割合　（単位：%）

区分		年齢	令和元年度 A	平成30年度 B	前年度差 A－B	全国(元年度) C	全国との差 A－C
男子	幼稚園	5	－	0.50	－	0.33	－
	小学校	6	0.75	0.32	0.43	0.42	0.33
		7	0.30	－	－	0.37	△ 0.07
		8	0.31	1.99	△ 1.68	0.73	△ 0.42
		9	0.46	2.01	△ 1.55	1.55	△ 1.09
		10	3.42	2.25	1.17	2.61	0.81
		11	2.13	1.08	1.05	3.25	△ 1.12
	中学校	12	2.17	1.68	0.49	2.99	△ 0.82
		13	1.38	1.22	0.16	2.31	△ 0.93
		14	2.18	1.14	1.04	2.40	△ 0.22
	高等学校	15	2.79	2.34	0.45	3.60	△ 0.81
		16	1.47	2.61	△ 1.14	2.60	△ 1.13
		17	2.17	3.24	△ 1.07	2.68	△ 0.51
女子	幼稚園	5	0.10	0.67	△ 0.57	0.31	△ 0.21
	小学校	6	0.18	－	－	0.56	△ 0.38
		7	0.34	0.93	△ 0.59	0.45	△ 0.11
		8	0.71	0.52	0.19	1.09	△ 0.38
		9	0.85	1.17	△ 0.32	1.65	△ 0.80
		10	2.51	2.86	△ 0.35	2.71	△ 0.20
		11	1.58	2.39	△ 0.81	2.67	△ 1.09
	中学校	12	3.44	4.08	△ 0.64	4.22	△ 0.78
		13	1.69	2.94	△ 1.25	3.56	△ 1.87
		14	1.36	1.53	△ 0.17	2.59	△ 1.23
	高等学校	15	1.73	4.20	△ 2.47	2.36	△ 0.63
		16	2.38	1.82	0.56	1.89	0.49
		17	2.00	1.37	0.63	1.71	0.29

（注）「痩身傾向児」とは，性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め，　肥満度が－20%以下の者である。

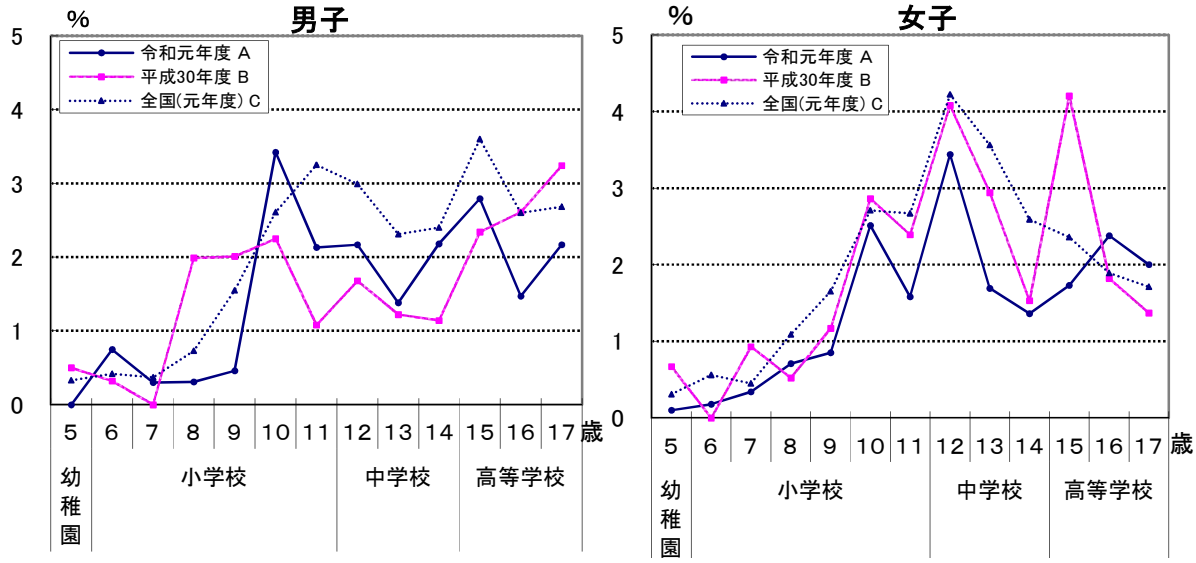



図2　年齢別痩身傾向児の出現率の推移